

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-208755

(43) 公開日 平成11年(1999) 8月3日

(51) Int.Cl.<sup>8</sup>B 6 5 D 85/00  
5/52

識別記号

3 0 1

F I

B 6 5 D 85/00  
5/52

3 0 1

H

審査請求 未請求 請求項の数 5 F D (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平10-21571

(22) 出願日 平成10年(1998) 1月20日

(71) 出願人 000002897

大日本印刷株式会社

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

(72) 発明者 土屋 直之

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

大日本印刷株式会社内

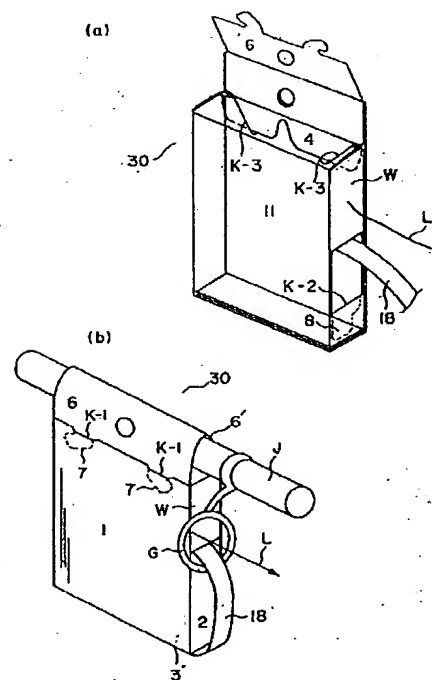
(74) 代理人 弁理士 金山 聡

(54) 【発明の名称】 釣り糸用カートン

(57) 【要約】

【課題】場所を選ばず、器具も使わず、人手も借りず、しかも糸巻の回転阻害を引き起こすトラブルもなく、容易に、迅速に糸巻からリールに巻き込むことができる釣り糸用カートンを提供する。

【解決手段】 折り畳まれている2重のヘッダーパネル6、6'を開いて釣り竿Jに跨がせ、前側ヘッダーパネル6先端の係止片7を前板上辺の切り込みK-1に差し込んで釣り糸用カートンを釣り竿から吊り下げ、さらにカートン内部に挿入されている天板に接続している折り込み片4が糸巻に触れて回転阻害を引き起こさないように台紙の内側垂直板11の上部両側に設けられた切り込みK-3に折り込み片4の端部を差し込む。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 前板と後板、天板と底板、両側板同志がそれぞれ対向するカートンであって、釣り糸用糸巻を収納したまま前記カートン自体を釣り竿から吊り下げ可能とする吊り下げ手段と、前記カートンから釣り糸を引き出す釣り糸引出し手段と、前記釣り糸引出し時に起きる糸巻回転阻害防止手段と、陳列段階での前記カートン内部における前記糸巻の位置決め手段とを、一体的に形成されてなり、釣り竿のカイドに隣接して吊り下げられた前記カートンから釣り糸を引き出して前記釣り竿上のリールへの安定した巻き込みを可能としたことを特徴とする釣り糸用カートン。

【請求項2】 前記吊り下げ手段が、前記後板上辺に後側ヘッダーパネル、前側ヘッダーパネル、ヘッダー差し込み片の順に延長して形成されたヘッダーパネル部を前記釣り竿に跨がせた状態で前記ヘッダー差し込み片と前記前板の上部に設けられた切り込みとの係止によることを特徴とする請求項1記載の釣り糸用カートン。

【請求項3】 前記釣り糸引出し手段が、前記釣り糸をいずれか一方の前記側板の一部に形成される釣り糸引出し口を通すことによることを特徴とする請求項1あるいは2記載の釣り糸用カートン。

【請求項4】 前記糸巻回転阻害防止手段が、前記天板に接続された差し込み片の両端の内、少なくとも一方を前記後板に沿って内装されている台紙の切り込みに差し込むことによることを特徴とする請求項1乃至3のいずれかに記載の釣り糸用カートン。

【請求項5】 前記糸巻の位置決め手段が、前記台紙の所定の位置に設けられた90°に起きる突起片と前記糸巻のスリットとの嵌合によることを特徴とする請求項1乃至4のいずれかに記載の釣り糸用カートン。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、リールに巻き込んで使用する釣り糸を収容するカートンに関する。

【0002】

【従来の技術】従来の釣り糸用カートンは、釣り糸が巻かれたプラスチック製の糸巻をカートンあるいはプラスチックバックのようなパッケージに単に収納し、ヘッダーパネルに設けられた貫通孔のフックホールによって陳列可能としたものである。また、特開平8-143号公報、特開平8-70746号公報には、以上のパッケージを釣り竿に固定する手段を持たせたものが提案されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】これまでの釣り糸用カートンは、糸巻に巻いた釣り糸を単に包装して店頭で陳列可能とする機能を有するに過ぎなかった。従って、釣り糸をリールに巻き込む場合、糸巻の芯に棒を通してそれを固定する器具を必要としたり、あるいは二人がかり

で巻き込まねばならないという問題があり、釣り場において一人でリールへの巻き込み、あるいは巻き替えが、容易に出来ないという問題があった。この問題を解決する手段として、特開平8-143号公報、特開平8-70746号公報において提案されているものは、フック、ループのような固定具を別途用いて、糸巻を収納したパッケージと釣り竿を繋ぐものである。しかし、この状態ではパッケージが前後、左右に揺れ動くので、リールへの安定した巻き込みが難しいという問題があり、また従来のパッケージに固定具コストがプラスされてコストアップとなり、さらに、使用後に固定具まで廃棄されると環境汚染を増長するという問題がある。本発明は、前述の問題点に鑑みてなされたもので、カートン製造コストは従来と殆ど変わらないで、従来のカートンの包装、陳列機能に加えて、リールに釣り糸を巻き込み易くする機能をカートン自体に付加した釣り糸用カートンの提供を目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】前記課題を解決するためになされた本発明による釣り糸用カートンは、前板と後板、天板と底板、両側板同志がそれぞれ対向するカートンにおいて、釣り糸用糸巻を収納したまま前記カートン自体を釣り竿から吊り下げ可能とする吊り下げ手段と、前記カートンから釣り糸を引き出す引出し手段と、前記釣り糸引出し時に起きる糸巻回転阻害防止手段と、陳列段階での前記カートン内部における前記糸巻の位置決め手段とを、一体的に形成して、釣り竿のカイドに隣接して吊り下げられた前記カートンから釣り糸を引き出して前記釣り竿上のリールへの安定した巻き込みを可能とする。そして、以上の各手段は、次の構成からなるものである。前記吊り下げ手段は、前記後板上辺に後側ヘッダーパネル、前側ヘッダーパネル、ヘッダー差し込み片の順に延長して形成されたヘッダーパネル部を前記釣り竿に跨がせた状態で前記ヘッダー差し込み片と前記前板の上部に設けられた切り込みとの係止によるものである。前記釣り糸引出し手段は、前記釣り糸をいずれか一方の前記側板の一部に形成される釣り糸引出し口を通すことによるものである。前記糸巻回転阻害防止手段は、前記天板に接続された差し込み片の両端の内、少なくとも一方を前記後板に沿って内装されている台紙の切り込みに差し込むことによるものである。前記糸巻の位置決め手段は、前記台紙の所定の位置に設けられた90°に起きる突起片と前記糸巻のスリットとの嵌合によるものである。

【0005】

【発明の実施の形態】以下図面によって本発明をさらに詳細に説明する。図1は、本発明による釣り糸用カートンに収納される釣り糸用糸巻の説明図である。本発明による釣り糸用カートン30に収納される釣り糸用糸巻（以下単に糸巻という）Mは、円形のものが多く、糸巻

Mを釣り糸用カートン30内で回転させながら釣り糸Lを釣り糸用カートン30の一部から引出すようにしたものである。なお、釣り糸Lの先端は、糸巻Mの周辺に設けられたスリットSによって固定されていて、使用時にそれを外して引き出すようになっている。

【0006】図2は、本発明による釣り糸用カートンの使用時の機能概要説明図である。詳細な説明に入る前に、使用時の機能の概要を図2によって説明する。本発明による釣り糸用カートン30は、それ自体には釣り竿Jに対する固定手段がないため、図2に示すように、釣り竿J上のガイドGあるいはエントランスガイド（中通し竿Jに使用するもので図示せず）に隣接して、それ自体に設けられている吊り下げ手段によって釣り竿から吊り下げ、釣り糸用カートン30の釣り糸が引き出される側の側板がガイドGに当接して始めて釣り竿上に固定されるようになっている。そして、その位置から釣り糸Lを引き出して直接スピニングリールRに巻き込むことができる機能を持たせている。本発明による釣り糸用カートン30によれば、図2で示すように、最寄りのガイドG、あるいはエントランスガイドに隣接して吊り下げ、①で示すように直接あるいは釣り竿Jの先端を経由して釣り糸をスピニングリールRに巻き込むことができる。また、②で示すように、釣り竿の先端のトップガイド（図示せず）に隣接して吊り下げ、釣り糸LをガイドGか釣り竿Jの中芯を通してスピニングリールに巻き込むようにしてもよい。このように、本発明による釣り糸用カートン30を吊り下げる位置は自由であるが、操作性の点からは竿の先端よりは、スピニングリールRに近い位置、例えば図2の①で示す第1ガイドかあるいは第2ガイドに隣接する位置が、短いパスで安定して容易に釣り糸を巻き込むことができるので好ましい。さらに、本発明による釣り糸用カートン30には、店頭での商品陳列機能、釣り竿Jからの吊り下げ機能に加えて、糸巻をカートン内でスムーズに回転させる機能、商品陳列段階で糸巻の正しい位置決めのための機能、釣り糸巻き込み時の姿勢制御機能等が付加されている。これらについて、以下順次説明する。

【0007】図3は、本発明の釣り糸用カートンのカートンブランクの展開図である。このカートンブランク10は、一つの態様を示すもので、カートンブランク素材には透明なプラスチックシートを使用している。カートンブランク10は、図3に示すように、前板1の左右には側板2、2'が折り線a、bを介して接続され、前板1の上辺には、天板3、差し込み片4がこの順に折り線e、gを介して接続され、また前板1の下辺には、底板3'、差し込み片4'がこの順に折り線f、hを介して接続されている。一方、後板5の左右には側板2と糊代9が折り線c、dを介して接続され、後板の上辺は、そのまま延長されて後側ヘッダーパネル6'が形成され、その上辺には、折り線iを介して前側ヘッダーパネル6

が接続され、それがさらに延長されて係止片7が形成されている。このヘッダーパネル6、6'の略中央には貫通孔Hが折り線iに対して対称に設けられている。ヘッダーパネル6、6'は、折り線iで内側に折り畳まれて2重となり、貫通孔Hが陳列時のハンガーからの吊り下げ手段として機能する。また、側板2、2'上下には、小フラップ8、8'が設けられている。さらに、前板1と天板3の間の折り線eの一部は切り込みK-1となっている。また一方の側板2の上部のミシン目1と折り線j、eによって区画される領域は、ミシン目1から容易に切り離されて、小フラップ8とともに折り線jで外側に折り返されて釣り糸取り出し口Wを形成する部分である。

【0008】図4は、本発明による釣り糸用カートンに組み込まれる台紙の説明図である。本発明による釣り糸用カートン30には上述した透明なカートンブランク10に加えて、板紙による台紙20が併用される。図4はその一つの態様を示している。台紙20は、図4(a)に示すように、内側底板12、内側垂直板11、内側ヘッダーパネル15、外側ヘッダーパネル16、外側垂直板14、外側底板13がこの順に折り線m~qを介して接続され、外側垂直板14には折り返し片17が折り線rを介して接続され、折り返し片17の一端には細長い帯状体18が設けられている。また、折り返し片17と対向するような折り返し片17'を設けてもよい。内側ヘッダーパネル15、外側ヘッダーパネル16の略中央には貫通孔H'が折り線oに対して対称に設けられている。これは、カートンブランク10の貫通孔Hと同調する。また、内側垂直板11の上部両側には両側辺から切れ込む切り込みK-3が設けられている。さらに、内側垂直板11の所定の位置に突起片19が切り込まれている。図4(b)は、使用にあたって組み立てられた台紙の斜視図である。台紙は、図4(b)に示すように、全体がL字状に2重に折り畳まれ、さらに折り返し片17が略90°折り返されて使用される。この時、折り返し片17に延設されている帯状片18は内側底板12上に置かれている。

【0009】図5は、本発明による釣り糸用カートンの組み立て図である。本発明による釣り糸用カートン30は、図5に示すように、透明なカートンブランク10から成形された透明カートンと成形された台紙20とが一体的に組み込まれたものであって、前者は点線で、後者は実線で描かれている。また中央の円は糸巻Mが収納される位置、あるいは回転位置を示している。本発明による釣り糸用カートン30の組立、充填方法は、先ず、図3で示すカートンブランク10を側板2'と糊代9を貼り合わせて角柱体とし、底部を成形しておく。一方、台紙20のブランクを図4(b)に示すように、L字形に折り畳み、折り返し片17、17'及び突起片19を起こし、帯状体18を内側底板12上に折り曲げた状態に

しておいて、これらの間に糸巻Mを挿入し、突起片19を糸巻MのスリットSに嵌合してから、成形されたカートンの上部から挿入し、天板3を折り返して差し込み片4を内側垂直板11に沿って差し込めば組立、充填が完了する。突起片19を糸巻MのスリットSに嵌合させるのは、本発明による釣り糸用カートン30の店頭における陳列過程で、円形の糸巻Mが透明カートンの中で回転してしまい、糸巻Mに施された品名等の文字、図柄等が不揃いになるのを防止するための位置決め手段である。このようにして組み立てられた本発明による釣り糸用カートン30は、購買時点で、ハンガーに掛けられて陳列され、消費者は、前板1を通して、中身商品を充分確認して購入することができる。また、台紙のヘッダーパネル部分は良好な印刷媒体としても機能させることができる。また、糸巻Mを取り囲む台紙の折り返し片17、17'と内側底板12は、プラスチックの糸巻Mとプラスチック透明カートンの内壁とを接触しないようにしてプラスチック同志の摩擦を起こすことなくスムーズに糸巻Mを回転させることができるように機能する。かかる台紙の折り返し片を天板側にも設けてもよいが、本発明による釣り糸用カートン30が図1のように釣り竿から吊り下げられる限り、天板との摩擦は少ないので天板側は除外しても実用上は差し支えない。また折り返し片17'は、釣り糸LにテンションがかかってリールRに巻き取られるので、糸巻Mとカートン30との接触頻度は少なく、折り返し片17、内側底板12ほど重要ではない。

【0010】図6は、本発明による釣り糸用カートンの釣り竿へのセット方法の説明図である。先ず、図5に示す本発明による釣り糸用カートン30の天板3をはずして糸巻Mと台紙20を一旦取り出し、突起片19を外し、釣り糸引出し手段によって釣り糸取り出し口Wを形成する。すなわち釣り糸取り出し口Wは側板2の上部を外側に引いてミシン目1で破壊し、折線jで折り曲げ、側板2に接続されている小フラップ8を図6(a)に示すように切り込みK-2に差し込めばよい。そして釣り糸取り出し口Wを通して釣り糸Lの先端と帯状体18を引き出しておく。このような状態で糸巻Mと台紙20を再びカートン内に挿入し、天板3を被せ、それに接続している差し込み片4をカートン内に差し込むが、この時、図6(a)に示すように、台紙の内側垂直板11に設けられた切り込みK-3に差し込み片4の両端の少なくとも一方を差し込んで、差し込み片4がカートン内で遊離しないようにする。これは、カートン上部における糸巻回転阻害防止手段であって、この手段を講ずることによって、糸巻Mのカートン内での回転が遊離したプラスチックの差し込み片4と接触して阻害されることがなくなり、カートン上部におけるスムーズな回転が確保される。また、カートン底板3'側と釣り糸Lが引き出される側板2側における糸巻回転阻害は、上述のように内

装される台紙20によって回避されている。次に、図6(b)に示すように、前側ヘッダーパネル6と後側ヘッダーパネル6'とを鞍状に開いて釣り竿J上にガイドGに隣接して跨がせ、前側ヘッダーパネル6の先端に延設されている係止片7を前板1の上辺に設けられている切り込みK-1に外側から差し込めば、前側ヘッダーパネル6は前板1に連結されて、本発明による釣り糸用カートン30を釣り竿Lから吊り下げることができる。最後に、釣り糸取り出し口Wから引き出されている帯状体18を隣接しているガイドGのリングを通してから、その先端を底板3'に沿って差し込んで、ガイドGとカートン40との連結を行う。この連結は、次に述べる本発明による釣り竿30が有する姿勢制御手段である。以上のセッティングができれば、釣り糸取り出し口Wから引き出されている釣り糸Lの先端をスピニングリールRに導いて巻き込みを開始することができる。

【0011】図7は、本発明による釣り糸用カートンの巻き込み時のトラブルと姿勢制御の説明図である。上記のガイドGに隣接した位置からスピニングリールRに巻き込みを行う場合に、一般に竿を斜め上に立てて行う人が多く、図7(a)に示すようにガイドGの位置が釣り竿の真下に来ていれば問題はないが、釣り竿を左右いずれかに捻じれた状態で巻き込みを行うと、図7(b)に示すように、ガイドGの先端リングが釣り糸用カートンの側板2から外れてしまい、ガイドGを通して釣り糸Lを真っ直ぐに引き出せなくなる。この状態で釣り糸Lを引き出したとしても引っ張り抵抗が大きくなり、また取り出し口Wのエッジに擦れて釣り糸Lを傷める結果を招くことがある。そこで、この問題に対処すべく、本発明による釣り糸用カートン30では、釣り竿JのガイドGの位置に対する釣り糸用カートン30の姿勢制御を可能とする機能を持たせている。すなわち、図7(c)に示すように、釣り竿Jが、左右いずれかの方向に捻れた状態であっても、帯状体18がガイドGのリングとカートン30とを連結しているため、カートン30はガイドGの位置まで持ち上げられ、ガイドGのリングが側板2から外れることがない。

【0012】本発明による釣り糸用カートン30には、透明な塩化ビニル、A-PET(アモルファスポリエチレンテレフタレート)、ポリプロピレン等のプラスチックシートが好適に使用される。このような透明シートを使用することによって、プリスターパック以上に陳列効果を高め、中身が確認し易くなるので消費者に安心感を与えることができる。また、釣りの現場においても、濡れても吊り下げ強度は落ちず、糸巻Mの残量確認等がし易くなる等のメリットがある。また、台紙20には、極めて広範囲の板紙を使用することができる。台紙20は、全体を2重に折って使用すれば、漉き合わせによって裏面に灰色の古紙パルプが使用されていても、それは現れないので、外見上問題にならない。釣り糸用カート

ン30に使用する、プラスチックシート、台の寸法、坪量その他の仕様は、収納する糸巻の種類、大きさ等に応じて適宜決定すればよい。本発明による釣り糸用カートン30への印刷は、透明プラスチックシートか台紙20に対して行えばよいが、台紙2に対して行う方が、印刷の自由度が大きくて好ましい。その方法としては、オフセット、グラビア、シルクスクリーン、フレキソ等いかなる印刷手段を用いてもよい。また、透明カートンの方に裏面印刷してもよく、この場合もオフセット、グラビア、シルクスクリーン、フレキソ等の印刷が可能である。また、箔押し、エンボス等の装飾加工を施すことも可能である。

【0013】本発明による釣り糸用カートンは上述の実施の形態に限定されることなく本発明の要旨を逸脱しない範囲内で種々の変形が可能である。例えば、透明カートンの代わりに通常の板紙からなるカートンを使用してもよい。また、釣り糸の取り出し口Tの形状、位置は任意に定めればよく、さらに、カートンの底部構造も自由で、例えば、底部が自動成型されるオートボトム方式としてもよい。

【0014】

【発明の効果】本発明による釣り糸用カートン30によれば、カートン自体に設けられた吊り下げ手段によって釣り竿上のガイドGに隣接して吊り下げるることによって、場所を選ばず、器具を使わず、一人で、容易に、安定して、釣り糸LをリールRに巻き込むことができ、釣りの準備時間を減らすことができる。カートンに透明プラスチックシートを使用するので、強度があり、水濡れに強く、常に中の状態が透視できる便利さがある。また、カートンに台紙20を組み合わせることによってカートン内における糸巻Mの回転阻害防止手段、姿勢制御手段等を賦与することができ、スムーズな巻き込みが可能になる。また、糸巻の位置決め手段を賦与することによって、陳列段階で円形の糸巻Mが、透明カートン内で正しい位置を保つことができる。また、台紙20を印刷の自由度の高い優れた印刷媒体として利用することができる、ので店頭におけるディスプレイ効果を高めるばかりでなく、取扱方法の印刷面として利用することができる。また、釣り竿Jへの固定具は使われていないので、その分コストダウンに繋がる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明による釣り糸用カートンに収納される釣り糸用糸巻の説明図

【図2】本発明による釣り糸用カートン30の使用時の機能概要説明図

【図3】本発明の釣り糸用カートンのカートンブランクの展開図

【図4】本発明による釣り糸用カートンに組み込まれる台紙の説明図

【図5】本発明による釣り糸用カートンの組み立て図

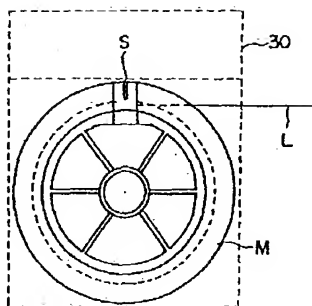
【図6】本発明による釣り糸用カートンの釣り竿へのセット方法の説明図

【図7】本発明による釣り糸用カートンの巻き込み時のトラブルと姿勢制御の説明図

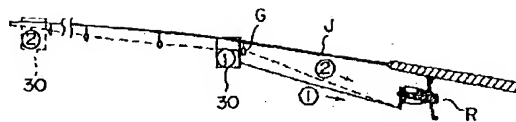
【符号の説明】

1	前板
2、2'	側板
3	天板
3'	底板
4、4'	差し込み片
5	後板
6、6'	ヘッダーパネル
7	係止片
8、8'	小フリップ
9	糊代
10	本発明による釣り糸用カートンのブランク
11	内側垂直板
12	内側底板
13	外側底板
14	外側垂直板
15	後側ヘッダーパネル
16	前側ヘッダーパネル
17、18	上部折り返し片
19	突起片
20	台紙
30	本発明による釣り糸用カートン
a～j	折り線
l	ミシン目
H、H'	貫通孔
J	釣り竿
K	切り込み
L	釣り糸
M	糸巻
R	スピニングリール
S	スリット
W	釣り糸取り出し口

【図1】

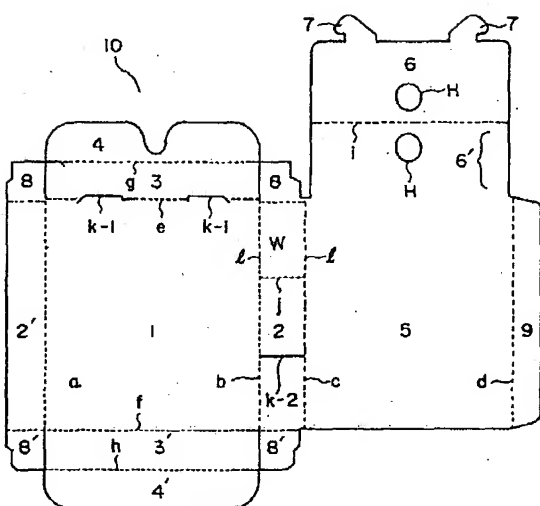


【図2】

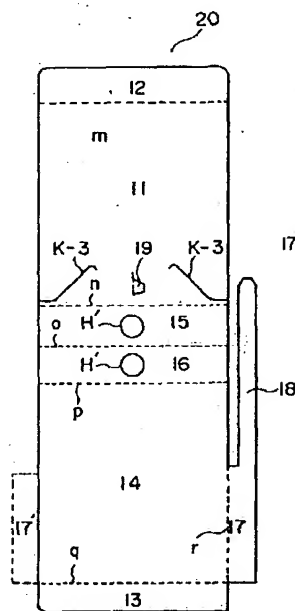


【図4】

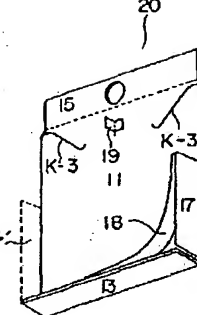
【図3】



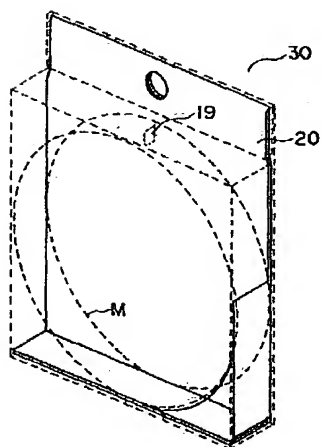
(a)



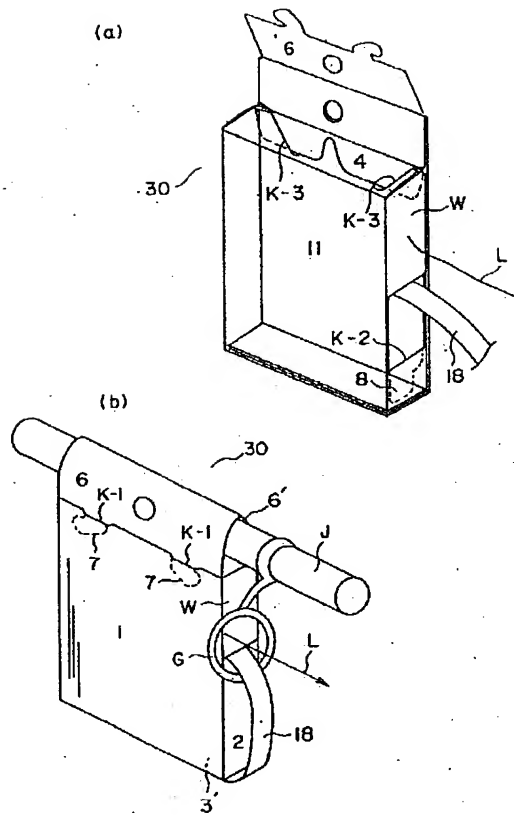
(b)



【図5】



【図6】



【図7】

